

製造事業スタートアップの 創業からの学び

東京農工大学長

千葉一裕

ペプチド医薬の潜在力と障壁

癌、代謝障害、中枢神経系、心血管、感染症、胃腸障害治療等

2000年頃・・・

様々なペプチドを自在に、大量に、高純度でつくることは困難であった
有機合成化学者にとって、「興味の外」であった
そもそも、ペプチドは医薬品にならないと多くの人が思っていた

現状・・・

2025年までにペプチド医薬は5兆円規模の市場になると見込まれている
ただし「製造事業」は一部の海外企業だけに集中している

2005年～大学発スタートアップ JITSUBO (株) 起業

Japan Innovative Technologies and Sciences for Ultimate Bio-Objectives

ペプチド医薬原料の「製造技術開発」を目指す



千葉實母散



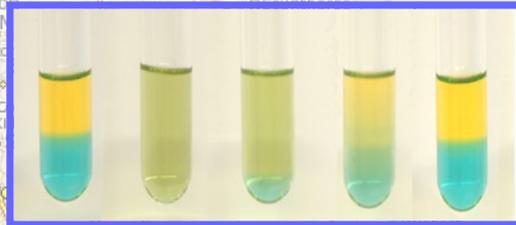
ただし、「**起業の動機**」は不十分だった

自分たちには斬新な技術がある
様々な化学反応にも応用できる
研究室でも合成研究が進められる
大学にインキュベーション施設がある
化学合成ができる人材を輩出できる
数百万円までなら自ら資金も出せる

世界各地で技術紹介をしたが

apitope

2005年頃



Bristol



Cambridge

International Business Challenge in U.K.

2007年～ 第一人者たちとの出会い



SRI International (シリコンバレー) における学生・企業合同研修 (2007年より継続実施、本学から300名以上を派遣)



SRI Internationalの経営者・指導者と共に

米国、欧州、アジアのトップレベルのイノベーションリーダーに出会い、事業連携と強い信頼関係を構築できた



Stephen Ciesinski
元SRI International CEO、
Stanford GSB 講師



Peter Schuup
Managing Director
Steinbeis Univ.



Hank Huang
Director of Center for Industry
Accelerator & Patent Strategy
NCTU Taiwan



シュタインバイス研修 (本学主催) 2010年～ 毎年30～70名のドイツ人学生が参加。本学学生、企業職員と共に事業開発の世界展開を企画



アジアトップレベルのイノベーションを推進するCenter for Industry Accelerator & Patent Strategy, NCTU (国際研修を本学と合同開催)



STANFORD
GRADUATE SCHOOL
OF BUSINESS



國立交通大學
National Chiao Tung University

シリコンバレー研修を現地開催

全国の博士課程学生その他、教職員、理事・副学長等に参加を呼びかけ



イノベーションとは何か？
イノベーションを達成するために最も重要なことは？

世界各国での研修、留学、招聘の機会が大幅に増加



アンカラ大学 (トルコ)



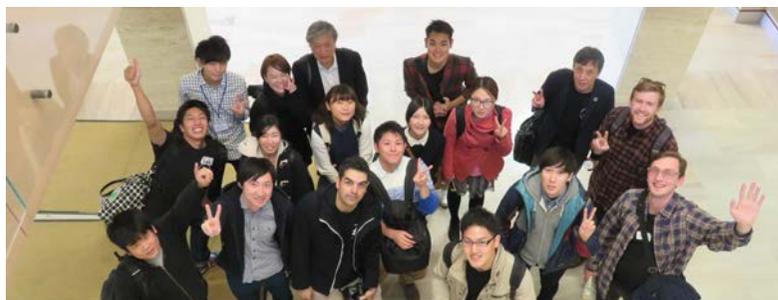
SRI International (USA)



ミラノ大学 (ドイツ)



ボン大学 (ドイツ)



コーネル大学 (USA)



アールト大学 (フィンランド)



チャピngo大学 (メキシコ)



UAE大学 (アラブ首長国連邦)



シュタインバイス大学 (ドイツ)